

こころの病と向きあう

内 容

■誰にでも潜む“心の病”とは？

10年前にうつ病と診断され、精神科病院に入院していた白石さんに、病気にかかったときの経緯や、病気に対する思いを聞く。こうした心の病とは一体どのようなものなのか？



■入院医療の最前線

現場の病院ではいま、どのような治療が行われているのか？ 現在では、入院しなくても、薬を正しく服用し、定期的なカウンセリングなどを受けることで社会生活を送っている人も多くなっている。しかしその一方、病状的に退院が可能なのに受け入れる家族がないなどの理由で「社会的入院」と呼ばれる患者が全国に7万人も存在する。



■阻害と偏見、問われるメディアの在り方

19歳のときに統合失調症と診断された小川さんは、病院内にあるデイケアを利用しながら生活している。小川さんには以前、別の病院の閉鎖病棟で過ごした経験があった・・・精神病院は怖いところというイメージは、メディア報道の問題もあり、いまでも根強いものがある。



■患者を支える家族の思い、そして地域コミュニティ

家族は患者や社会に対してどのような思いを抱えているのか、またその苦悩とは？「家族会」が語る真実の声。

また地域活動支援センター「そらのまめ」では、心の病を経験した当事者が主体となり、さまざまな病気や障害を抱えながら地域で暮らしている人たちや、その家族に対する支援を行っている。患者にとって地域で暮らしていく中で抱える問題点とは？



■患者にとっての“就労”

アルバイトやパート社員として病気や障害がある人を積極的に雇用している企業がある。千葉市内に本社を置く企業の人事担当者に、心の病を持つ人を雇用することが会社にとってどのような意味があることなのかを聞く。



—たとえ病気や障害があっても、人は幸せに生きる権利があります。

—社会を生きる仲間として接していきながら、一人一人が正しい知識を身につけましょう。—